

キャラクター名
結縁 燈火 (ゆいふち とうか)

プレイヤー名

シンドローム	サラマンダー		ワークス	UGNチルドレンA	カヴァー	中学生
	サラマンダー					
オプション			年齢	14	性別	男
覚醒	素体	衝動	殺戮	初期侵食率	34	%
出自	双子	経験	実験体	邂逅	恩人	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	32
肉体	4	1	0			5	行動値	4
感覚	0	0	1			1	(非装備時)	4
精神	2	0	0			2	戦闘移動	9
社会	2	0	0			2	全力移動	18

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	4		射撃			RC	1		交渉		
回避	1		知覚			意志			調達		
運転:			芸術:			知識:			情報:	UGN	1
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
80%未満	白兵	8r+2	6	10		
80%以上	白兵	8r+2	6	10+25		
100%以上	白兵	9r+2	6	10+30		

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
思い出の一品	
嗜好品の友人	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイム	消費
D申し子	P	N		
凍華	P 庇護	N 不安		
FHへの殺意	P 執着	N 殺意		
夢幻 零	P 信頼	N 猜疑心		
護	P 信頼	N 敵愾心		
支部長	P 尊敬	N 恐怖		
フレンズ	P	N		

最大財産P: 4 残り財産P: 1

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
結合粉碎	3	4	メジャー	-	-	対決	ピュア	
効果: ダイス+Lv個 装甲値無視								
氷炎の剣	5	3	マイナー	至近	自身	自動		
効果: 攻撃力Lv+6ガード値6命中-2								
閃熱の防壁	1	4	オート	視界	単体	自動	ピュア	
効果: HPダメージ -Lv+2D, ラウンド1								
終末の炎	5	2	マイナー	至近	自身	自動	80	
効果: Lv×5の任意でHPを削りダメージを上げる								
氷の回廊	1	1	マイナー	至近	自身	自動		
効果: 飛行状態で移動 +Lv×2移動								
セレリティ	1	5	メジャー	至近	自身	対決		
効果: 即座に二回メジャーアクションを行う 10-Lv分失う								
コンセ: サラマンダー	2	2	メジャー	-	-	対決		
効果: いつもの								
紅蓮の衣	1	2	メジャー	至近	-	対決		
効果: ガードを行った際Lv×5ダメージ								
地獄の氷炎	5	2	マイナー	至近	自身	自動	リミット	
効果: Lv×3 攻撃力orガード値に+								
炎の理	★							
効果:								
超越者の眼力	1							
効果:								
シークレットトーク	★							
効果:								
効果:								

サラマンダーのシンドローム保持者のPC1
 しかし、扱えるのは炎系統しか扱えず、サラマンダーのシンドローム保持者としては半人前なところがある。
 サラマンダーの火しか扱えないように、心も炎のように暴走しやすいためいつもPC2に止められている。
 で気になったことがあれば一直線で突っ走ってしまい、頭よりも体が先走ってしまうことが多い。
 FHの実験施設で凍華に対して男に対してトラウマを持つようになったため、それについて過剰に注意している。
 男が近づいたら《超越者の眼力》をノータイムで使うほど過剰。
 お兄ちゃん、絶対妹に近づくと男許さないキャラ。

FHの実験施設、それが僕達の全てだった。
 ピュアブリードを使ったFHの実験施設の中で、僕達はサラマンダーの双子であり人には言えないような実験を繰り返していた。
 まあ、FHの科学者みたいな人たちに頭の中弄られてほとんど覚えてないけど。

実験施設で暮らす中、覚えきれないほどの痛みがあったのはこの体が覚えている。だけど、こんな生活を耐えきれたのは凍華と一緒にいたからだ。2人だったらこんな辛さもヘッチャラだった。
 だけど、いつかは凍華と一緒にこんな場所から飛び出して、凍華だけでも幸せな生活がしたいと、囚われた部屋の中の小さい窓からの光を見て決意した。

ある日、凍華だけ呼ばれていった。そんなことはあんまりなくて、凍華だけだったからものすごく心配だった。だけど、行く前に凍華が「大丈夫」っていつものように言ってくれたから僕は信じるしかなかった。

凍華が帰ってきてから凍華の表情がおかしい。いつもより元気がなく、目に光が灯ってない気がした。何かあったのか聞こうとした時、今度は僕の方が呼ばれた。